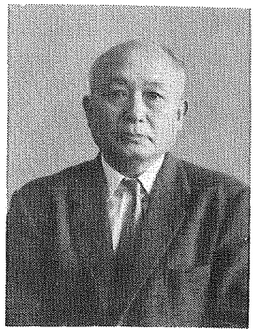
新年の御挨拶

惣津律士



謹しんで新春のお慶びを申し上げます。

さて昨年はなかなか多事な年でありました。畜産公害就中鶏の糞処理問題が取り上げられ、また酪農界では牛乳中の農薬および抗生物質の残留の問題が新聞紙上を賑わし、更に配合飼料の再度の値上げなど、数々の問題が未解決のまま越年しております。本年はこれらの解決に政府はもとより、団体、畜産農家が好むと好まざるとを問わず取り組まなければならなくなりました。

家畜の糞尿は多頭羽になればなるほど、その処理に悩まされる事は申すまでもありません。有畜農業という言葉が使われていた時代には今日の状況は想像できませんでしたが、今や一つの社会問題に発展しつつあります。糞尿処理については各方面で真剣に研究されているためにいろいろな解決方法が案出されて、それぞれ効果をあげつつありますけれども、より経済的にしかも他に迷惑を及ぼさないように処理する事は並大低ではありません。県酪連では公害対策委員会を昨年末につくりまして、関係機関の協力を得て、より効果的な方法の創造に力を入れる事に到しております。

次に農薬残留問題はBHC・DDTを今後一切稲作の病害虫防除に使用しないようにとの農林省の厳達により、これからは急激に解消するものと考えられますが、抗生物質については食品衛生法により、乳房炎治療用注入剤を使用した生乳については服用または注射後七二時間内の生乳は出荷できない事となっておりますが、乳房炎が多発している現状では厳重な注意が必要でありまして、要は生乳出荷者の自覚にまつところが大きいのを感ずるのであります。県酪連では昨年来趣旨の徹底を図ると共に自主検査体制の確立を急ぎ、更に県、獣医師会、共済連の協力を要請してこれが防止に全力傾倒しております。

これらの問題についてはあまりに昂ぎ立てて畜産農家の生産意欲を畏縮させる事は厳に慎むべきで、根気よく努力しなければなりませんが、不注意によって他の酪農家に迷惑をかける事は厳に慎まねばなりません。

輸入飼料原料の高騰により、配合飼料が二度に亘ってトン当り四、〇〇〇円も値上げされた事は畜産農家にとって大きい衝撃でした。

輸入原料の八割をアメリカに依存している我国畜産界としては、大いなる反省の時期が到来したというべきでしょう。したがって私達は政府の力をかりて自給飼料の増産確保体制を是が非でも確立しなくてはならなくなりました。政府は米作転換という名の下に畜産振興を行うのでなくて、今後の日本農業は畜産を中核としなければならない事を国民の前にはっきり示すべき時が来ております。米生産調整のみに終始する農政であってはなりません。

一九七一年の課題は何と申しましても近代的畜産の確立の第一歩たらしめたいのであります。それにつけても、畜産問題の解決にあたって政治力の貧困さを痛感せざるを得ません。政治力の強化は何より大切となりました。皆様のご健闘を祈り上げます。

新年の御挨拶 …… 惣津律士 …… 1
棟方志功さんの仕事ぶりをみて …… 橋本精 …… 2
連繋のもとに進もう …… 牧野勉 …… 3
自助努力を軸に開拓を …… 門馬二三 …… 4
新春放談会
日本畜産の確立をめざす
惣津律士　山上茂吉
三宅忠雄　蔵知毅 …… 6
畜産偶感 …… 桧垣徳太郎 …… 13
◇岡山県酪農にひとこと
申す …… 花田時太 …… 14
◇岡山県養鶏にひとこと
申す …… 小野登志男 …… 16
◇肉用牛に思う …… 林正夫 …… 18
朝市隠遁 …… 竹原宏 …… 20
畜産会の初夢 …… 22

臨床家に信頼される
武田の動物用薬品

疲労回復、産前産後の起立不能に
動物用
アリナミン®100注射液

肺炎、子宮内膜炎、乳房炎に
動物用
タイロシン200注射液

ケトーシス、炎症性疾患に
動物用
コルソンP注射液

繁殖・代謝障害と尿路結石症に
動物用
インジャコムADE
「ロシュ」

武田薬品工業株式会社　食品事業部畜産部
東京都中央区日本橋江戸橋2－7

棟方志功さんの仕事ぶりを見て

岡山県畜産課長　橋本　精

人間国宝、棟方志功さんの版画製作ぶりを最近映画でみる機会がありました。

幼いとき左眼を失明し、右の視力も極めて弱いという棟方さんは、床の上に並べられた原板の上に、全く感動的に、躍動する心の動きそのままを、太い筆に托して右に左に、上に下に、物すごいスピードを乗せ走らせておられます。視力の弱い棟方さんには、おそらく、原板に画かれた構図をハッキリとご覧になることはできないと思いますが、自由奔放のなかにもそれが調和を保ちできあがるのですから驚ろかざるを得ません。

しかし、それにも増して、ビックリさせられたことは、次に彫刻されるときの模様です。右手に彫刻刀をもち、左手で板を押え、右眼は彫られていく刀の先きから一〇センチ余りしか離れておりません。その刀の動き、これがまたすごい勢いで板の上を走り廻りますが、さきに画かれた原図の墨の跡をたどるのでもなく、これまた自由奔放なのです。

そのようにして完成された棟方さんの版画をみるとき、その全体の構図の美しさ、力強さ、そのなかに感じられる心温まる豊かさにはひとしく心を打たれますが、それがとても視力が弱く、至近距離で彫刻されたものとは思われません。

新しい年を迎えますと、清新な気分になり今年は何をやろうかと、新たな意欲まえ進会と呼んでおりますように……。

畜産は産業であり、産業はあらゆる経済活動と有機的な関連性をもち、これを無視しては発展がありえないことを思いますときなおさらにこの感を深くします。

もちろん、畜産が産業として見直されるようになりましたのは、ここ十年来のことですから、漸く軌道に乗ろうとしている段階にすぎないことは認めねばなりません。

部分的にしかみえないその目をカッと見開き、全体を洞察される心構えがあったればこその偉さだと思います。

そこで、私達にとっても一層大切なことは、物事を広い視野から考えることではないかと思います。

これまで、私達は、自らを「畜産人」だと称し「畜産を指導する」「畜産を奨励する」などといってまいりましたが、頭のなかで考えていた「畜産」は、牛や豚などの「家畜」ではなかったかと思います。それは丁度家畜の品評会を畜産共

だけの美しい製作を完成されるのですから、

さんのような視力の弱い人でも、あれだ

正常な私達はもっともっと頑張らねばならないという気持ちを強くさせられました。

つまり、もし棟方さんが目とか足とか部分的に美しいものしか彫刻できなかったとすれば、今日の人間国宝としての栄誉は当然受けられなかったことでしょう。

したがって、畜産共進会ではない、家畜品評会だ、などと野暮なことをいう気は毛頭ありませんし、家畜そのものの改良にも増殖にもこれまで以上に努力すべきことは当然ですが、さらに、お正月のことですから、炬燵に温まり、餅を食べながら、畜産を取り囲む周囲の状況をいろいろ考えてみようではありませんか。

例えば、国は昭和五十年の余剰水田を六〇万ヘクタールといっておりますが、それは中国四国と近畿の大部分を加えた水田面積に匹敵しますし、最近の飼料輸入量は一、二〇〇万トンと推定されますがこの量は飼料を満載した三万三〇〇〇トンの貨物船が毎日、日本の何処かの港に入っていることになります。

また、来年度の国の予算は九兆四千億円とかいわれておりますが、もし一兆円を千円札で数えるとすれば、一分間に三〇〇枚として不眠不休で七年、平常勤務なら三〇年はかかるそうです。

このようなめまぐるしい社会状勢を、私達が逐一理解することは到底困難なことですが、棟方さんのように、活眼を見開き肌で感じ、全体のなかに生かされる畜産として伸長せしめたいものと思います。

新春を迎え、皆様の御健勝をお祈りしながら、ひとこと感じましたままを。

連繋のもとに進もう

岡山県畜産コンサル会長　牧野　勉

輝かしき一九七一年の新春を迎えるに当り、謹しんでお慶びを申し上げます。

最近目まぐるしい経済社会の動きは内外共に予想外の生長を遂げ、七〇年代の厳しさはいよいよその度を加え、すでに第一年度は農史初めての米の生産調整を初めとし、吾々農企業を志すものにとっては最も厳しき試練の年ともなりました。加えて今年こそ一層深刻さを増し、企業経営者として残れるか他産業の待つ労使の道に流れるかの決断を迫られてまいりました。この時に当り、吾々は勇気と決断と根性を以って貫らぬき、同志と相たずさえて経済成長に呼応してますます躍進致さずにはおられません。

その為には、あの小さな尺取虫でさえ伸びんとほっすればまず基礎姿勢を整えながら根性を以って躍進しているではありませんか。吾々もこの重大時期に直面して、立派に残れる企業経営者たらんことを新春に当りお誓い致しましょう。

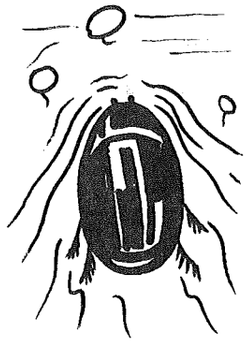
幸い吾が岡山県には他県に優るこうした指導組織として岡山県畜産会がすでに設立され、惣津名会長を初め諸先生、県各指導機関の一貫した指導体制が名実共に充実されていることは、岡山県の吾々にとりましては誠に幸いに存ずる次第でございます。

しかし、巨万の宝としてのダイヤの玉も、箱の中の存在では真の価値はなく誰にも認められないが、岡山県ではすでに数年前より畜産コンサルタント事業の推進により、優れた指導体制を通じて技術経営指導が徹底している中に、こうした岡山県下の同志の横の励ましの会としていささか設立遅れの感も致しますが、この度同志の希望と指導組織のご助力により、昨年一月十七日発起人会を開催、続いて三月二十日設立総会の運びとなりまして「岡山県畜産コンサル会」として誕生致しました。

会の目的として「会員相互の連絡を密にし、意見交換、技術の交流を進め、岡山県畜産会が行なう畜産コンサルタント事業の効果の拡充を計り、もって県下畜産の発展に寄与することを目的とする。」とかかげ、各々規約を定め運営することになりましたが、一応最初の計画でもありますので会員も畜産コンサルタント事業の中核指導農家を中心に八〇名の会員のご参加を得て、いよいよ四月一日より運営を致すこととなったのであります。名誉会長として惣津畜産会長をお迎え致し、計らずも私、初代の会長の重責に着くことになり、誠にせん越ではございますが「岡山畜産便り」誌上を通じましてごあいさつを兼ね、会員皆様のご支援と各指導機関のご指導をお願い申し上げます。

そして、ただ有名無実に終ることなく今後ますます同志の結合により会の内容の充実を計ると共に漸次会員が全県下に増加し、今後の厳しい経済成長に呼応して研究努力を重ねて、各々会員の体質改善を図ると共に、会の目的としておりますとおり折角の指導機関のご指導が県下末端にまで普及効果をも期待すると共に、岡山県畜産の発展とコンサル会誕生の意義深かるべく、お互に励ましあい研究しあい、ますます岡山県畜産発展の中核としてこの最も多難なる七十年代の社会経済を乗り切る畜産の先兵として、会員皆々様と共に大いなる躍進をお誓いすると共に、この上とも関係各指導機関の諸先生の絶大なるご指導を乞い願って止みません。

コンサル会発足に当り、一言お願いを兼ねごあいさつにかえさせていただきます。



自助努力を軸に開拓を

新春特別寄稿

社団法人中央畜産会

常務理事　門馬二三

わたくし達の祖先の生活の知恵が、一年の計は元旦にありと教えてきた。このころもろもろの事象は、混屯とし喧騒（犬騒）に終った年でもあった。

感情をこめて、紀元でいえば二六三一回、西暦で数えると一九七一回目の新しい年を迎えたわけである。

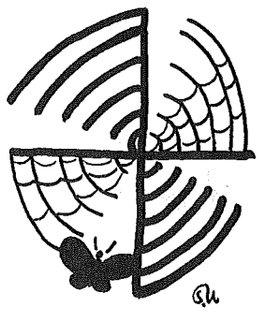
昨年は、社会的、経済的な面でわれわれの日常に大きく影響する数々の問題がめまぐるしく激動した年であった。自由世界第二位の経済大国にのしあげた産業界にとって、繊維や家電の通商上の対外制約ふくみからくる不安、それに追いうちをかけるように前途に暗い公害問題をひかえ、いよいよ社会問題人道問題へと産業界にとって重大な課題が提起されている。農業界にとってもカナダにおける小麦の生産調整、アメリカのトウモロコシの大巾減産などがあげられ、内に「コメ」の生産調整、稲作転換に伴う新しい農業生産構造への模索などのなかで、畜産の振興が強く唱導された。その畜産に飼料高、畜産物価格の低迷による経営難、さらに貿易自由化の促進が、畜産関係残存品目解除の気運が迫るなど、先行き困難な情勢が待ち構えている。

十二支の縁起をかつぐわけではないが去った年は「いぬ」の年で、一九七〇年代幕あけの年として、七〇年代への抱負と決意をもって迎えた。そして、七〇年代という言葉が好んで使われた年であった。ところが、われわれの身の廻りのもろもろの事象は、混屯とし喧騒（犬騒）に終った年でもあった。

畜産界にとっても七〇年代への畜産は六〇年代に培養された零細小頭羽数飼養の畜産から脱脚して、国際競争力に耐えるものにという合言葉のもとに、それぞれの分野で構想が練られた。また、これまでの畜産の大部分は、限られた畜産人の畜産という狭い領域での副業的な形態の畜産でしかなかった。したがって、わが国の畜産は、耕種農業の余剰労力活用の場として、労力配分の調節弁的存在として対処されてきたといえる。このような畜産は、内外ともに大きく転換しようとしている農業情勢下で、急速に構造的再編を行なわれなければならないときを迎えている。七〇年代への畜産は、過去の延長線上では期待に応えられないものと考えられるに至っている。断絶論の発想も七〇年代への新しい畜産の確立を意味するものであることに注目する必要がある。

新しい年は、過ぎ去った年に経験した対策案の中から、新しい感覚で問題の要点を整理集約して志向すべき重点を思慮深く、慎重に設定する構想の樹立をはかるべき年である。米の生産調整にしても畜産の画期的な振興策にしても、定かでない目標に場あたり的な対策で望んでは徒労に終るばかりではなく、問題の解決を一層複雑にすることが憂いられるからである。当面する農業問題の解決策は、一応各分野から出しつくされた感があるしかし、これからの農業のあり方に対する問題解決の重点が不明確で信頼のおける手順もあいまいであるという観測がある。このことは新しい年に真面目に反省すべき新しい年の課題である。

農業をそして畜産を安定的に発展させるという最終目標を同じにしながら、各分野で、その立場を固執し過ぎるのではあるまいか。立場上という無理を背負わされがちな社会のしくみの中で、立場を棄てることは非常にむずかしいことである。しかし、その困難性があっても小異を棄てて大同につくという心構えが強く要請されている。それは辻遠な敗北主義ではなく、自滅への道を避ける実際的な方法として考えなければならないことと思われてならない。



今年は「いのしし」の年である。再び十二支のあたり年にことよせることになるが、猪突猛進ということが想起される年である。したがって、思索と確信のない猪突を避ける綿密さを忘れないで突進する年にしたいと思うのである。

わが国の農業が、米の生産過剰という未曽有の現象によって農政の根幹をゆるがしている。昨年は農業情勢のきびしさを一般に周知させる動きが活発で印象的な年であった。今年は農業問題解決の年にしたいものである。何ごとによらず他力依存による解決には限界があって徹底解決の方途でないことは多くの事例が教えている。本年は自助努力を軸に激動する農業情勢に対応する新しい発展への道を開拓すべき年である。

六〇年代は農業や畜産の振興と発展に関する制度が整備された年代であった。七〇年代は構造改革を実践する年代といわれている。岡山県の畜産会は本誌を通じて岡山県の畜産を振興する努力を陣頭に立って推進してきた。そして新しい年を迎えてさらに飛躍する畜産に希望を与えようとしている。

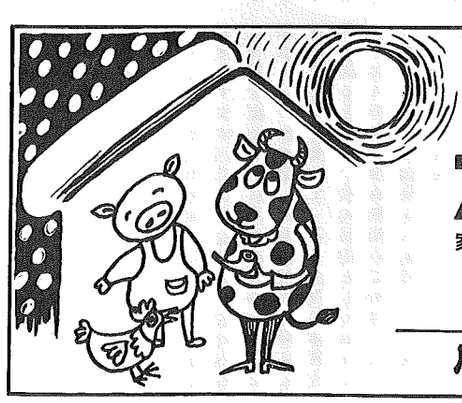
畜産業の発展は岡山県のみに課せられた課題ではない。この畜産誌が広くわが国の畜産発展に寄与するよう一層の発展を祈念してやまない。

謹賀新年　本年もよろしく

タキイの牧草と飼料種子

タキイ種苗株式会社

京都市・下京区・梅小路　郵便番号600－91



断熱が簡単に!!

ウチヤマ

プラスフォーム®

家畜の管理は断熱から…内山は断熱材メーカーです

発泡スチロールの断熱材で、軽くて、きれいに簡単に施工出来ます。畜舎などの断熱のことならお気軽にご相談下さい。設計・施工もいたします。

内山工業株式會社　岡山・大阪・茅ヶ崎

本社／〒702　岡山市江並　338　Tel 0862－77－7131

新春放談会

日本畜産の確立を目指す

出席者

惣津律士
岡山県酪連会長
岡山県畜産会会長

三宅忠雄
川上町農協組合長
岡山県畜産会副会長

山上茂吉
岡山県養鶏農協組合長
岡山県畜産会副会長

蔵知毅（兼司会）
岡山県畜産会事務局長

肉用牛の行方は

蔵知・新春早々お忙しいところお集りいただきありがとうございました。

最近我々が指導に農家を廻ってみますと、農政に対する不信を強くもっていることがうかがわれるのです。米作転換の道具に畜産が用いられているきらいもあり、畜産農家としても先行き不安を感じております。これらの農家を安定させる方向にもっていかなければなりませんが、そのために岡山県畜産会は、非常勤畜産コンサルタントの方々の協力を得て、畜産コンサルタント事業を中心に、その他種々の指導事業を通じて、指導を行っているわけです。最近の日本の農政の中にあって我々の仕事はますます重要性を増して来ておりますが、今後更に何を重点におし進めるべきかは重要な問題です。

農家の経営診断を毎年進めておりますが、多頭羽化が進み企業的になるに従い問題も大きくなって来ますし、現在では役場とか農協に対する技術指導、あるいは市町村の畜産の今後の方針に対するアドバイス、更に商社資本によるインテグレーションに対する指導と、畜産会の指導も多岐にわたるようになってきております。これらの点もふまえて、大いにお話をしていただき、我々の参考にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

惣津・・畜産会の仕事がふえてきていることはまことにけっこうなことですが、それだけに重大さをましてきているのだろうと思うのです。

米の生産調整の実施で、米にかわるものとして畜産がとりあげられまことにけっこうなことなのですが、実際は昨年の春先から配合飼料が二度に亘ってトン当り四、〇〇〇円程度値上げされ、酪農、肉牛肥育、養鶏と輸入飼料にたよっているものにとって大変なことになってきているのです。私共の強力な要請によって応急策はとられつつありますけれども、いつまでも海外依存にたよっている飼料の原料事情をこの際真剣に考えなければならなくなりました。早急に抜本的な配合飼料政策を政府にとりくんでいただかないとえらいことになりそうですよ。

三宅・・肉用牛生産面では、畜産会のコンサルテーションを受ける以前の問題が生じてきているのです。

米を作るなということで、農家は農業に希望を失なってしまい、牛を手離して弁当持ちで日雇いに出てしまうようになり、山は荒れてイノシシばかりふえるということになっているのです。和牛の種付け率がはげしい地区では四〇パーセント減、少ないところでも二〇パーセント減という状況で、これは当然今年の子牛

右から三宅，山上，惣津，蔵知の各氏

の生産数にあらわれてくるのです。企業的経営をどうこういっても意欲を失っているのだからどうにもならない、これを防ぐのは思い切った施策で生産基盤を作ってやることだと思うのです。昨年十二月の肉用牛全国大会でも強くこの点を要望したのです。農林省にかけあいにいきますと、日本には世界一肉質のいい牛がいるのだからだいじょうぶだろうといわれるのだが、いくらおほめをいただいても儲からなければだめですよ。

惣津・和牛生産はこれは深刻な問題です。コンサルテーションではどうにもなりませんよ。

昨年の十一月に、中・四国の畜産会の関係者が集って、岡山県畜産公社の奥津の繁殖育成センターを対象に検討会を開いたのですが、その結果は牛の飼養管理、草地の管理はいうことはない。結局は運営費の問題で、長期低利の補助金、あるいは利子の補給が必要であるということになったのです。これは国なり県なりになんとかしていただかなくてはなりませんよ。県の職員が出向してやってもこうなんですから、一般の農家がこれを行うとなると労賃を犠牲にしてやってもまだ追いつかないのはあたりまえで、三宅さんのいわれることはもっともなことですよ。

大型化と飼料問題

蔵知・和牛生産の減少を喰いとめるものは、現在では子牛価格安定基金しかないと思うのです。やはり価格政策が一番でしょう。和牛生産基地などの指定をするからには、その地域でできる子牛は、補償価格一率八万三、〇〇〇円でなく、一二万円ぐらいに引き上げて意欲を持たせることが必要ですよ。

蔵知・要するに大型化にも問題があるということになるのだろうと思うのです。

弁当持ちで出かければ日当いくらというのが農家の話題になって来ている現状ですから、それにみあう所得をということになると、いきおい多頭羽化になるのですね。酪農にしても、土地面積が決っているのに多頭化するものだから飼料費がかさんできてどうにもならなくなるということが多く発生しています。

山上・養鶏ではね、都市近郊で地玉子として高く売れ二〇〇～三〇〇羽でもやってゆける人を除いては規模の小さいものは止めてしまい、今は三、〇〇〇羽以上のものが残っているだけです。

それに戦後値上げしていない食糧品は玉子だけで、現在一コ一五円ぐらいですが、欧米諸国でも二〇円をこえているのです。そして経費の大部分を占める飼料が輸入飼料ですから大変ですよ。

惣津・それに今年も安定価格が一六〇円据え置きのようですが、これはどういうことですか。

三宅・規模が大型化してきていますから、コストダウンを養鶏家自身が行っていることになるのです。

惣津・一般の方向として、大型化、企業化しなければならないといわれておりますが、しかし、これの設備投資を考えたら莫大な金額ですよ。どこまでも大型化すればよいというものではなく、限度がありますよ。

特に和牛では、抜本的な振興法が立法化されなければなりませんよ。もっともな

山上・いっとき国有林の開放がさかんに叫ばれましたが、農家に近い官公庁有地の払い下げによる規模拡大によってコストダウンを図っているような例は、岡山県にはありませんか。

惣津・あるにはあるのですが、国有林の払い下げなどなかなかむずかしい問題なのですよ。

惣津律士氏

養鶏振興法のように中身のないものではいけませんが。

三宅・・一昨年の全国肉用牛大会で、肉用牛振興法の立法化をという声もありましたが、予算的裏付けのないものでは何にもなりませんので、肉用牛所得税特別免除とか子牛価格安定基金の拡充などというもので肉付けをしながら、ゆくゆくは立法化をということになっているのです。

三宅忠雄氏

山上・・現在ブロイラーには二〇パーセント、加工卵には二〇～二五パーセントの関税がかかっておりますが、それでも昨年三万トンもの液卵がダンピング値で入っており、我々は被害をうけているのですが、これを、物価安定政策で経済企画庁案では大巾に下げようとしているのです。マトン、ラムはゼロ、牛馬の肉は八パーセントとしておりますが、これでは日本では実質的畜産は止めてしまい、外国の余剰畜産物に頼って、国民は鉄工所の労働者や土方になれというのと同じですよ。

輸入飼料に頼っている畜産はえらいことですので、飼料対策をなんとかしなければなりません。

狭い日本の国土にたよるより、南方諸国に技術者を派遣し、安く生産し、それを日本に持ち帰ったらと思っているのです。これはゼスチャーだけでもよい。そうすれば、アメリカのとうもろこし相場に牛耳られることも少なくなり、大いにけん制する効果があると思うのです。

惣津・・日本で考えられる飼料原料は古々米だけというなさけない状態です。

山上・・海外に飼料資源はまだ余裕があると思うのです。現在はとうもろこし、マイロに限定していますが、戦前はカナダから格外小麦を相当輸入していたのです。戦後はそれが製粉業者などに流れるおそれがあるということで小麦の飼料化が遅れておりますが、カナダ、オーストライアなどには七級、八級などの格外小麦がかなり野積みされていますからね。

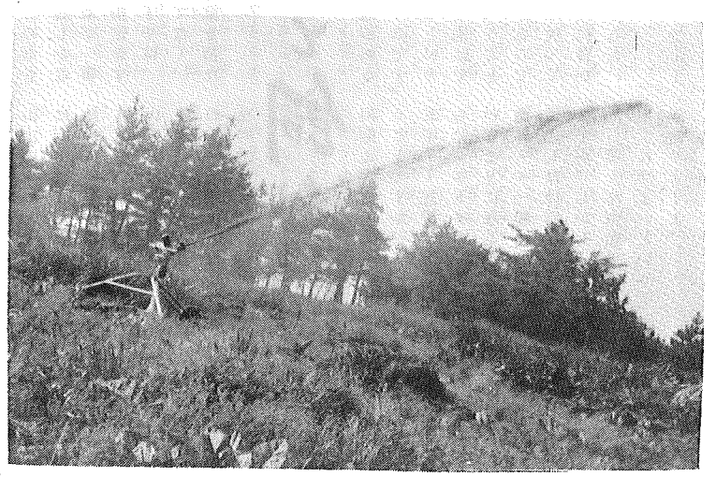
三宅・・麦類は現在でも肉牛肥育などにはかなり使っておりますし、今後もますます重要な飼料になると思うのです。しかし、国内では生産費の面で引き合わないから、作付けをしなければ補助金をやろうなどと、考え方によっては国土の利用に計画性がないともいえるのです。

消費者としても、安くさえあればよいで輸入しろと叫ぶのはどうかと思うのです。やはり素朴な農民感情というものも大切にしていただきたいですね。

ヒドロ

高圧スラリーポンプ
大型スプリングクラー
（水洗式糞尿散布装置
設計・施行）

真備町　布引牧場（下）



メーカー中央機器製作所
TEL24—3268
藤井酪農器商会
岡山市春日町4—13

肉畜問題について

蔵知・・最近、肉用牛の生産基地設定の話題が出たりしましたが、岡山県の場合、和牛の生産と肥育の結びつきについてどのようにもっていったらよいのでしょうかね。

三宅・・当然これからは結びつける方向にもっていかなければなりません。とても現状で生産だけの企業的経営などできるものではないですよ。肥育まで仕上げて利益を出したり、雌子牛は売って素牛を導入して規模を大きくするとかが必要です。また、生産を中心に考える場合は山林との組み合せを考える、つまり山林との複合経営にもっていくことが必要です。もう一つは、系統的繁殖まで研究し種牛生産をする少数精鋭主義ですね。

蔵知・・肉牛となると最近は乳用雄牛が大半を占めるようになってきておりますが、これも酪農振興と兼ね合わせて、ほぼ安定の方向に向っているようですね。

三宅・・一昨年は一時えらく価格が下落して、やれ農業会館に持ち込むの県庁の庭につなぐのという突き上げもありましたが、肥育技術も向上し、肉質もよくなった関係もあり、昨年など特に好調であったようですね。

現在の肉用牛、乳用牛の飼養頭数はどちらも一七〇～一八〇万頭ですから、今に乳牛の生産子牛が多くなりますよ。またた素牛確保の面からも当然力を入れていかなければなりません。

蔵知・・鶏のほうは採卵とブロイラーとの関係はどうですか。

山上・・ブロイラーぐらい時期によって左右されるものはないので困っているのです。最近はインテグレーションにより商社が大資本にものをいわせて大冷蔵庫を設置して安全弁の役割をしているようですね。

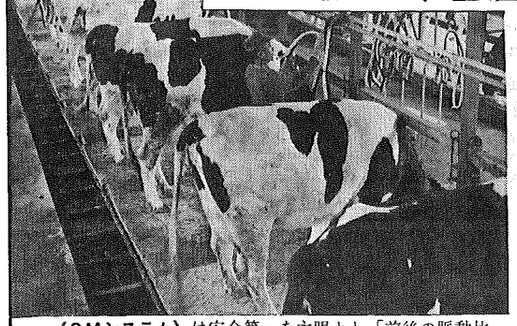
惣津・・ブロイラーもそうですが廃鶏肉が問題ですよ。これを何とかしなければなりませんね。

山上・・廃鶏専門で大規模にやれば引き合うと思います。需要はいくらでもあるのです。廃鶏肉をミンチにしてしまうのです。そうすると一キロ三〇〇円ぐらいなら採算がとれます。私のところの養鶏農協組合でやっておりますが、学童給食、給食センター、大食堂などから、一時に一トンもの注文があるくらいですから、人の問題、鶏病の問題等ありますが、適地を求めて設置すればかなりいけると思うのです。

蔵知・・県下には六〇〇万羽以上の鶏がおり、これがオールインオールアウトで一年単位で入れ替っているのですから、またそれが何千、何万単位で出てきますからね。

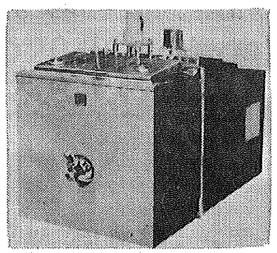
QUICK MILKING System

世界の酪農界で大反響！
Cowpet
乳牛の健康を守る　QMシステム
カウペットラインミルカー



《QMシステム》は安全第一を主眼とし「前後の脈動比率」と「吸引と休止の比率」は世界に例のない画期的なもので梅沢の技術がこれを完成し得たのであります。
皆様方に安心してご愛用願える確信ある製品であります
◆搾乳時間25%短縮　◆搾乳量５%増加
◆前後同時に搾りきり　◆安全搾乳で牛体を守る

QUICK COOLING System
原乳冷却と
貯蔵のきめて
クイック・クーリング・システム
バルククーラー



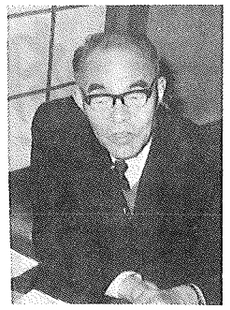
〈カタログ進呈〉

——アイスバンク方式——
冷却効率がきわめて高く、すでに各地の公式テストでも記録的な好成績を納め、その性能が実証されております。操作はすべて自動式冷却、貯蔵、集乳作業の省力にもいちじるしい効果を発揮します。
（540ℓ・1080ℓ・1800ℓ）

酪農機総合メーカー
株式会社 梅沢製作所
本社工場　東京都江戸川区松江２－15－９電(652)7511代
群馬工場　群馬県甘楽郡甘楽福島916電富岡（２）3141代
営業所出張所　札幌・帯広・盛岡・熊本・宮崎・岡山・半田・豊富・浜頓別

代理店
株式会社 藤井酪農器商会
岡山市春日町４番１３号
郵便番号７００電話（24）3268代

畜産公害解消とは



山上茂吉氏

蔵知・・公害といえば家畜の糞尿の処理が大きな問題になってきましたね。三宅・・私の所のような地形の悪いところでも酪農では多頭化がどんどん進んでいるんです。本来は堆肥は畑地に還元して飼料を作るのが普通の姿ですが、一〇頭にもなると労力がかかるものだから、いきおい稲ワラとか濃厚飼料にたよってしまい、せっかく構造改善で造成した畑はやせてしまい、そして糞は別途で処理しなければならなくなっているのです。

蔵知・・土地条件がよい所では、水洗式にして畑地に散布してしまう方法も導入されているようですが、都市近郊酪農、水田酪農、あるいは肥育では牛糞の焼却が一番の良法となることになりましたね。

山上・・養鶏でも同じことで、鶏糞を乾燥するなど過去の話になりましたね。しかもいかに周囲に影響を出さずに焼却するかです。

私のところの種鶏場も過疎地帯に移転して、害の出ないように焼いているのです。

惣津・・糞尿処理問題はこれからの重大な点ですよ。これがその経営の存在を左右するような場合もありますからね。それに商社など畜産に進出してきていますが、事前によく指導していかないといけません。谷間に野積みなどしたのでは畜産そのものが攻撃されますからね。

それに、昨年は酪農において、農薬や抗生物質の残留問題が起り、「きれいな」牛乳を生産するように指導を進めているのですが、今まではほっておいて厚生省あたりが急に強い指導を行い、それにマスコミが騒ぎ出しています。何だかわりきれない気持です。

しかしながら、「きれいな」牛乳を造ることは絶対必要でありますので、県酪連としては各地区を巡回して、農家の方々と話しあってご了解を求めていますので、本年は解決していくものと考えております。

内臓、骨の処理まで考えていきますと、これも一つの公害処理にもなると思うのです。補助金あたりしっかり出してもいいんですがね。

岡山県酪農連御推薦

Seaweed meal ラミール Lameal

飼料添加物

繁殖障害 連産性促進 に対する決め手 最高水準の海藻純粉末

(生)グルーデン ビール粕 豆腐粕 ： 酪農用飼料全般 配合飼料原料

株式会社 稲美飼料
兵庫県明石市魚住町清水745
TEL 二見(2)1693

中央指導活動を

蔵知 毅氏

蔵知・・そういう問題とも関連しますが、一方では一般労働者の賃金はどんどんあがっている、また消費物価もうなぎのぼり、畜産物は据え置きということで、畜産に対する先行き不安を強く持っておりますね。

惣津・・それは要するに農政が日本にないからですよ。日本の食糧はいくら自給し、それにはこうするんだという筋の通ったものがないのですからね。

規模拡大とか生産費の切り下げといってみたところで、どこまでもそれがおし進められるものではありません。やはり我々畜産人は、皆んなの政治力を結集しておし進めなければいけない時になって参りました。そして、私達は畜産に理解のある人を一人でも多く政界に出す必要を痛感しております。

山上・・そのとおりですね。我々の力を一致させて、ほんとうに畜産のわかっている人にしっかりとやっていただかなければいけませんね。

蔵知・・畜産会は畜産コンサルタント事業を中心にその他かなりの事業量をかかえておりますが、これら事業の拡充効果を図るために各方面との協調を図ってゆかなければなりません。また行政面への要望も農家の声を代表して多くの点をあげなければなりません。そこで実際にこれらの仕事を進めてゆくためにいかにしてゆくべきでしょうか。

惣津・・畜産会は畜産コンサルタント事業を中心に指導事業を行っているのですが、最近では、我々の上部機関である中央畜産会では、各畜産関係団体の共通問題についても研究を進め、場合によってはそれを政治的に解決してゆく方向に進めつつあるようです。そのために会長に赤城宗徳氏、副会長に山中貞則氏、大石武一氏が就任し、役員にも中央団体から相当の実力者が顔を連ねており、このスタッフをみれば、政治的にもかなり動けるのではないかと期待しているのです。

岡山県畜産会でも他県に比べ活溌に活動しておりますが、農家の技術指導にとどまらず、あらゆる問題の相談役となるためには、現在の常勤コンサルタント二名、コンサルタント補三名では不十分です。当初常勤は各県二名という割り当てですか、各県の畜産事情も当時より変っているし、各県畜産会の活動状況も違いますので、私は中央に対して定員の再配分、あるいは増員を要求しているのです。

最近畜産会の存在価値は大いに認められて来ております。これは非常勤畜産コンサルタントの方々、その他の方々のご協力によるもので感謝しておりますが、畜産会としては実際の手足はないわけで、末端指導の徹底は図れないのです。

最近は家畜保健衛生所にしても農業改良普及所にしても町村、農協にしても統合、大型化して農家との接触は少なくなっているので、これらに依存していた本会としては、指導の面で困難を感じております。

しかしながら、年と共に我々の仕事は重要性を増してきており、畜産関係団体の統合指導機関として働かなければならないのですが、何分に指導機関であるために金というものがともなわないので困っているわけです。それで与えられた畜産コンサルタント事業にとどまったり、または他の機関の必要な時とか都合が悪くなった時に引っ張り出されて雑務だけふえて、さっぱり会運営の足しにはならないことになっているのです。これを何とかしなければと思っています。

山上・・畜産会の目的ははっきりしており、私も賛同しておりますが、その目的にそうべくいかにしたらよいか、具体的な方策になるとつきあたってしまうわけです。

牛乳の20%増産の秘訣は

蚊・蝿のいない好環境から

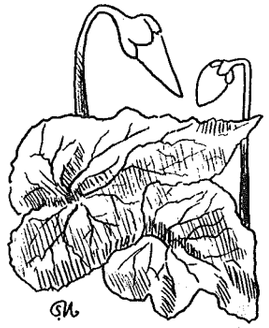
DAIRY
酪農かとりせんこう

■本品はピレトリンだけを含有、問題になったDDT、BHC、ドリン等の塩素系薬剤は一切含んでおりません。従って牛の健康をそこなわず、しかも牛乳中にも毒性が検出されません。

お求めは所属の組合へ

豊年薬品商会

大阪市住吉区東加賀屋町3—5—2
電話 大阪 06 (671)5662(代表)
郵便番号 558



米作転換によりかなりの土地が休耕されており、多くは条件の悪い土地でしょうがそれでも優良な土地が多数荒れるにまかされております。反面、畜産ではその飼料の大部分を輸入に依存するといった具合で、矛盾を強く感じます。日本農業が未曽有の事態に直面しているのですから、各方面との連繋を密にして畜産の確立を図るために行政庁等に要望すべき点は要望し、着手できる方向にもってゆけば、畜産会の仕事はかなり伸展すると思われるのですが。

惣津・これは畜産会の仕事の内容とは直接の関係はないですが、私は県からの援助が大いにあってしかるべきだと思っております。

本会は経済行為を行って利益をあげられるものではないし、会員団体の援助にも限度があります。大型化してきている畜産農家の要望に応えるためには、本会は巾広く活動しなければならなくなっているし、仕事をするのは人なのですから、行政的にももっと力を入れて、中、四国一の畜産県たる実力を示すべきだと思うのです。

また、コンサルタント団が示す助言書は、これは県なり国に対する農家の要望であり民の声なのですから、これをもっともっと行政面にとりあげていただいてもいいのではないでしょうかね。

三宅・最近各地に畜産団地造成が県の指導で進められておりますが、これはまことにけっこうなことなのですが、現在経営している所から団地に移るには相当経費等がかかります。施設には補助金が出ますがそれだけで、当座の運転資金の貸し出しはないし、団地造成に対応した技術指導も近代的な流通機構の改善とかも行われないわけですよ。やはり団地造成をして一カ所に集めるのなら一環した流れのあるものがほしいのです。畜産会もその中の一員として大いに力を発揮すべきではないかと私は期待しているのですが。

惣津・やはり別格団体として浮き上ってはならないので、せっかくの診断結果のカルテが取り上げられないようでは困りますね。

蔵知・行政的な大きな問題は別として、農家個人の問題についてはコンサルテーションを受けた農家の個々の意欲によってひらきはありますが、かなりの改善効果があがってきております。その農家を拠点としてその周辺に効果がひろまっている例は多数あります。更に我々は、役場とか農協の経営している畜産公共体の指導も行い、あるいは会社組織のものへも指導の場を広めております。

惣津・畜産も現在のように、高度経済成長の中、あるいは人間の生活環境がやかましく叫ばれ、公害、農薬問題の出ている今日の流れの渦中にあっては、やはりこれに対応してゆかなければどうしようもないのですから、畜産会としても、当然この点をよくわきまえてやって行く必要を感じております。

蔵知・いろいろ貴重なお話、文字どおり新春放談になりましたが、本誌として年頭の企画を会長、副会長の座談会にしたところ、期せずして、本会の施策方針の表明となったようであります。まだまだ言いつくせない面もあったでございましょうが、時間もなくなりましたのでこの辺で終ります。

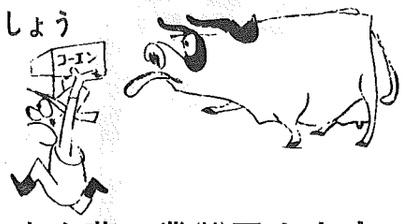
また、本誌としても、本会の充実、指導体制の強化に併わせて、編集内容も更に充実し、新らしい企画をもって、読者の皆さんとの結びつきを強めて、親たしみやすく且つ参考になるようにして参りたいと考えておりますので、一層のご協力、ご愛読をお願いいたします。

肥育牛に多発している 尿結石症を治療・予防しましょう

固型カウストン

乳質改善　乳量増加に

毎日鉱　塩をあたえましょう



日本全薬工業株式会社

郡山市昭和1丁目15－23

TEL(2)5115

日本全薬工業㈱岡山支店

岡山県津山市井口25卸センター内

TEL(2)9251

随想

畜産偶感

桧垣徳太郎

皆様お元気にて新年をお迎えいただいたこととおよろこび申しあげます。

昔から「一年の計は元旦にあり」と申します。年々歳々元旦にはその意味で心気の充実するのをおぼえるのでありましたが、新しい人生の第一年を迎えたわたくしにとりましては、今年の元旦はこの感ひとしおなるものがあります。

三〇年近い官界を辞して四カ月、わたくしは全国を行脚して農業につき、また、関連産業をはじめ商工業あるいは運輸あるいは教育等ひろく社会・経済の実態につき勉強をいたしてまいり、新しい知見をつみ、いささか自らの今後進むべき方向について自信をふかめることができました。

この間、畜産界の皆様からは多大のご鞭撻をいただいておりますことを心から感謝いたしております。永い農林省生活でしたが、もっとも腰をおちつけて実のある仕事をすることができましたのは、三年にわたる畜産局長時代でありました。それだけに、わたくしは農業各界を通じて畜産界にもっともおおくの知己を得、また、その事情をもっとも知ることをえましたので、皆様のお話がよくわかり、また、皆様のご厚情が身にしみて有難く感ぜられるのであります。

最近の経済事情の変転ははげしいものがありますが、ことに農業情勢の変化は、恒常的生産過剰による米の生産調整をはじめ、各部門各方面にわたり、まことにはなはだしいものがあります。畜産につきましてはもちろん、このことは強くあらわれ、畜産局長をやめましてからまだ五年ほどしかたちませんのに、生産から消費にいたるまで、その変化はまことに驚くべきものがあります。

畜産局長時代、わたくしは相当さきをみた発展対策をうちだしてきたつもりでありましたが、今回各地を訪ねてお話をききますと、近年の畜産の発展ぶりはまことにめざましく、たてた対策のあるものはまことに不じゅうぶんなものとなっており、あるものはすでに時代遅れになっていることを知り、いまさらのごとく驚いております。反面、発展にともない当時は知られていなかった、また、たいして感じられていなかった事柄が、今日は重大な問題となっていることを知り、一層の勉強と問題解決への挺進の必要を強く感じております。

昨年一一月、豊橋で開かれました第五回全日本ホルスタイン種共進会を見学し、六年前わたくしが畜産局長時代に開催されたその第四回共進会当時に比し、出品牛の資質が一斉に向上しているのを拝見し、わたくしは家畜改良技術の進歩と関係者の皆様のご精進につよい感激をおぼえたのであります。

畜産技術は日にすすみ、畜産経営もまた日に発展をつづけております。しかし、反面、草地および飼料畑等の生産基盤の確立、流通飼料の需給安定、家畜ふん尿処理等のいわゆる畜産公害の解消、畜産経営規模拡大の円滑化、近代的畜産団地の建設、関連流通機構の合理化、新しい畜産の担い手たる人材の開発、畜産の国際競争力の強化等、畜産の健全な発展のために早急に解決を要する問題はまことに山積しております。しかも、これらの諸問題はいずれも単独に処理するのではなく、総合的に解決をはからねばならないものばかりであります。

このような情勢に対処するには畜産界の強い団結と、それを背景とした思慮ぶかい猛勇が発揮されることが必要であると感じます。一方、畜産を次代の農業の一翼をになう基幹部門として発展させることは、今日、国民的世論となっております。わたくしは畜産の健全な発展こそ国家存立の基盤である農業の振興の根本であると信じ、今後できうるかぎりの努力を傾注し、いささかでもそのお役にたちたいと決心しております。

年頭にあたり畜産界の皆様の弥栄を祈念し、あわせて皆様の一層のご支援をお願いいたし、年頭のご挨拶といたします。

（筆者は前農林次官・元畜産局長）

新年にあたり

岡山県酪農にひとこと申す

中国四国酪農大学校長　花田時太

近年我国の酪農が、乳牛頭数の増加と飼育農家の漸減という形によって、徐々にではありますが、経営規模の拡大を果しつつあり、また本県においても、全く同じような傾向で、全国平均を若干上廻る状態が見られることは、誠に心強い限りです。

申すまでもなく、この経営規模の拡大は、牛乳需要の増大に対応し、併せて農家所得の向上に資するものでなければなりません。したがって頭数の増加も基本的に大切なことではありますが、頭数だけ揃えばいいというものではありません。

頭数の増加と共に、牛の資質が重要な条件になって来ると思います。すなわち乳牛の質が揃って優れているかどうかは、特にミルカーを中心に考え、機械搾乳に適したものであることが大切です。夫々の経営体にとって収益の上に大きな差をもたらします。

本県は中国四国地区において、飼育頭数、飼育農家戸数等において群を抜いて第一位の地位にありますが、その資質、能力の面から見た場合、必ずしも頭数同様他県を圧して優位にあるとは言い得ません。むしろ酪農後進県においては、乳牛の改良育種に非常な熱意をもって、本県に追いつけ、追い越せのムードが強く、このまま推移すれば、乳牛の資質において、本県が逆に取り残されるような事態が憂慮されます。

したがって、今後量もさることながら、乳牛の質の向上ということに重点を置いて、経営者、指導者等関係者一丸となって、これを推進しなければならないと考えます。乳牛の産乳能力は高ければ高い程望ましいことは言うまでもありませんが、現実の問題として乳価、飼料価格、あるいは家族労働報酬等を勘案して、平均六、五〇〇キログラム、少なくとも六、〇〇〇キログラム（一日平均二〇キログラム）程度は欲しいと思います。乳牛の改良の進んだ今日、この程度の能力のものを確保することは、左程困難なことではありません。また自家保有牛の繁殖を行うに当っても、常に能力を十分把握してその向上を図ることが必要でしょう。

なお多頭飼育においては、できるだけ能力の揃ったものであることが必要で、

さらに経営経済を大きく左右するものに乳牛の疾病がありますが、統計によれば、本県の乳牛罹病率は遺憾ながら一五、〇％と全国的にも非常に高い割合を示しています。しかもその中で特に生殖器および乳器疾患の割合が圧倒的に多い状態で、これがひいては分娩間隔を長くしたり、耐用年数を短くして、経営をマイナスにする原因にもなりますので十分注意が必要です。これらが全て飼養管理の失誼によるものとは言いきれませんが、周到な注意によって相当改善できることは言うまでもありません。

分娩間隔については一三ヶ月、耐用年数については少なくとも六産以上を目標にすべきでしょう。

次に牛乳の問題ですが、その需要は年々増大の傾向は辿っておりますが、欧米諸国の国民一人当りの消費量と対比した場合、まだまだ格段の差が見られ、今後に期待されるところが大きいわけですがそれはいわゆる潜在的な需要で、我国の食生活の様式から短期間に諸外国並みに急速に伸びることはむつかしいと思います。したがって生産と消費の調整をうまくとっていくことにはいろいろ困難性があり、ある程度時期的なダブツキ、また逆に季節的な不足状態が生ずることもやむを得ないわけです。しかしこれに対してただ単に手を拱いていたのではその改善は望めません。すなわち乳業メーカーはもちろん生産者団体にお

大量消費といったような形に進まなければ、今後の酪農の伸展は容易に期待できないと思います。

なお最近来の生産調整に関連して、牛乳の国民栄養食品としての位置づけが、ますます重要度を加えつつある時、牛乳中の有害物質が指摘され、牛乳の消費拡大にある程度ブレーキをかける結果になったことは否めません。この点については、生産者としては、牛乳の生鮮食品としての本質を十分認識し、特に乳質保善に最善をつくして、消費者が安心して飲用できる良質の牛乳生産に心がけることが必要と思います。

中四国各県乳牛頭数と飼養農家数（昭和45年2月現在）

県名	飼養戸数	飼養頭数	1戸当り平均頭数	前年比 飼養戸数	前年比 飼養頭数
	戸	頭	頭	%	%
全国	307,600	1,804,000	5.9	94.8	108.5
岡山	6,660	42,900	6.4	88.9	113.8
鳥取	3,710	15,200	4.1	96.4	116.0
島根	3,210	13,400	4.2	89.2	107.5
広島	5,110	25,100	4.9	96.6	105.5
山口	3,110	12,800	4.1	92.8	95.8
徳島	7,480	33,500	4.5	100.9	111.7
香川	3,360	18,300	5.5	83.6	102.5
愛媛	4,460	19,100	4.3	98.0	110.3
高知	1,240	7,370	5.9	91.9	109.3

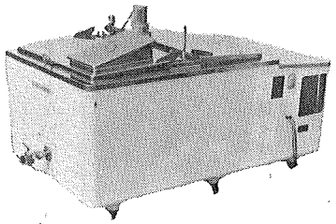
以上乳牛の能力、牛乳の消費拡大のことについていささか所感を述べましたが、多頭化酪農時代にあって、とかく量的な問題が先行し勝ちな傾向のある中で、質の重要性を痛感している次第です。

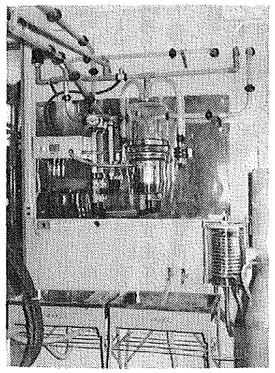
いても、牛乳の消費拡大について積極的な努力をする必要があります。それにはメーカーにおいては、その技術や施設を活用してどんどん新しい形の消費について研究し、これを実用化する努力をして欲しいし、また生産者においても、生産した牛乳をただメーカーに販売するだけの他力本願的な気持から一歩前進して、自分で生産した牛乳を、自分達の手でうまく家庭料理などに取り入れて、消費拡大の新しい形を産み出すくらいの研究心が必要だと思います。牛乳は小瓶で少量宛飲用するという既成概念から脱却して、新しい形の消費、しかも家庭においての

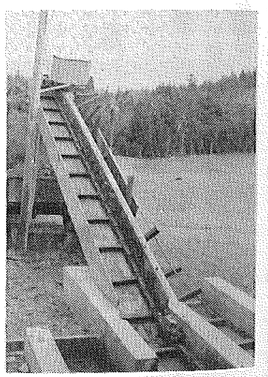
共に前進！技術の オリオン

パイプミルカー　バーンクリーナー

バルククーラー







米国3A衛生規格をはるかに上廻る高性能
アイスバンク方式ですから非常に経済的しかも超高級樹脂F.R.P樹脂を採用しておりますので断熱効果が抜群、絶対錆びません。

他に類のない特許の自動洗浄装置
多量の水とスポンジが循環し、パイプ内は常に衛生的、操作も簡単でオリオン独特のアイディアがここにも生かされております。

省力化に大いに貢献する自動糞出機
錆びないエレベーター、安全装置のローラーピン、耐久力のすぐれたチェーンなど数々の特長を持っております。

オリオン機械株式会社
本社・工場　長野県須坂市大字幸高246　TEL(5)1230
営業部　東京都渋谷区代々木1—37—20　TEL(379)4156
岡山出張所　岡山市柳町1—1—17小六農機内TEL(24)0300

営業品目：ミルカー　ウォーターカップ　ユニットクーラー　スタンチョン　デンサク　電動攪拌機

株式会社小六農機　岡山市福成岡山機工センター　TEL63—1221(代)

養鶏たわごと

——新年にあたり 岡山県養鶏にひとこと申す——

岡山県養鶏農協組合参事　小野 登志男

会議の席上で、ある農協人がかこっていた。日本一の産額を誇った薄荷は今やなし。イ草の日本一もあやしくなった。桃は過去の物語りだけ。マスカットも後発地の追いあげが急。養鶏も、間もなく生産県ではなくなるのではないか。それが、県民性というものだろう。と。

それらは、適地適作というもので、環境条件がそのようになったのだろう。と割り切って考えられもしようが、こと養鶏に関しては、そう簡単にいってもらいますまい。

岡山県の養鶏は、地方改良品種の雄として「岡山エーコク」「備中エーコク」を、阪神市場で「岡山タマゴ」「備中鶏卵」の銘柄を誇っていた以来の伝統が、今ありやなしや。

採卵養鶏

GNP世界第三位、高度成長経済とか申すにぎにぎしい日本国で、養鶏の位置や果して如何に。

日本の養鶏が、高度成長産業であることに異論はあるまい。鶏卵が物価安定の優等生で、ニセ物の存在を許さない優良食品であること。その消費水準が、主要国中のトップクラスにあることも事実である。

岡山県の養鶏は、採卵養鶏では屈指の生産県である昔からの位置を、今も保っている。といって、それが高度成長産業であるとはいい切れない問題を種々はらんでいる。他の生産県に比して、単位経営規模が比較的零細なものが多く、いわば、生業の域を脱しないものの集合地帯という感じだからである。しかし、それだから駄目だとか、遅れているとはいえないところに養鶏の特性がある。

物価安定の優等生といわれ、それを経営規模拡大と技術革新で果して来たと誇る養鶏ではあるが、実は根底に不安定な要素が少なくない。限界生産力と収穫逓減の法則が、かなり早期に来ることが多いからである。経営の合理化を、省力による規模拡大の優先で果そうとする計画がよくみられる。しかし、省力のキメテであるかのようにいわれる機械化では、かなり低い面で経費逓増ー収穫逓減ーをしばしば露呈する。また、卵価の季節的騰落が、今後も避けられない宿命的なものであるとするなら、採算割れ時期の損失を、採算有利な時期で消化するには、規模が大きいほど有利だとはいえない。また、内部留保が過小な経営では、規模の大小にかかわらず小さな損失にすら融資にまたなければならず、適正を欠く金利負担が、経営悪化を助長する。

養鶏経営の基盤をゆるがせる疾病の防止は、大規模、特にありがちな過密経営では、それがおろそかになり易い。過小経営の場合は、消毒器具等固定資産的な設備の、単位当たりの負担が大きくなって不利だ。あれこれ考えてみると、養鶏経営にはそれだけ弾力性があるともいえるし、そこにおとしあなもある。いずれの場合も、自家労力の構成、設備投資に対する自己資金の割合い、経営及び管理技術に対する意欲と能力等総合的条件を基礎にした適正経営規模を判断し実行することが望ましい。しかし、実際は、その判断が非常にむつかしいので困る。特に、鶏は、卵を産む機械ではないだけにその判断の困難性が倍加する。少なくとも、収穫逓減をもたらさない限界まで、経費を効率的に吸収するのが適正経営規模だ。ということは簡単だが、実行は不可能に近いほど困難である。年々、時々客観情勢は変化しているから。しかし、これだけはいえよう。背延びをしないで、しかも総合能力いっぱいの経営と、なっとくでき考える管理を、と。そして常に初心を。

岡山県の養鶏では、経営規模が過小なため、経費を効率よく吸収していない例が多い。しかし、ただ徒らに規模を大きくすることのみに汲汲としている場合が比較的少ないのはむしろ救いである。

適格には誰にもいえないが、お互の適正経営規模が、どのへんにあるか、それを熟慮し、それまで引き上げ、又は合理的な引き下げを行なうこのに、最大な努力を払う勇気を持ちたい。

岡山県の養鶏にひとこといいたいことは「勇気を持とう」である。しかし、もちろんそれは蛮勇ではなく、考える勇気でなければならない。

何をいわんとしたか、自分でも判らない。失礼。

ブロイラー養鶏

岡山県のブロイラー養鶏（産肉養鶏、採肉養鶏と呼ぶのはおかしいのではないか）は、先進県である（あった）と共に後進県であるというムジュンした存在である。早過きたために高い授業料を払わされ、生産意欲を失ってしまったのではないかと疑われるほど、生産が低下していた時期があった。特に、インテグレーションには手ひどい傷手をこうむり、長く不信感に低迷していた。このごろ、ようやく生産県らしくなったが、この飼料暴騰をどう受けとめるだろうか。生産意欲が、いささかならず減退している。過去に大きな犠牲を払わされた経験から、いまだに不信感から抜け出られないようだ。大きな被害を受けた方々にはお気の毒だが、その経験は尊い。初心に返って考えることはよいが、徒らにおそれひっこむのはどうだろう。

岡山県のブロイラー養鶏が、生産県として遅れをとっているのは、ブロイラー産業の最も特徴とする大量生産ー大量処理ー大量流通ー大量消費のルートから外れている場合が多いからではないか。それが地元消費向きを主体とするなら、それなりの存在理由がある。だが、昨年晩秋以来のように、地元向きが不足をかこっているのに、惰性のように、大消消地のみを対象にしていたグループが少なくなかったのはおかしい。もっと地元消費を大切にしたいもの。それには、現在の食肉環衛組合の存在が気がかりであるが。

増大する食肉需要の旗手であったブイラーは、飼料事情のため、再検討を要する時期が再来したようだ。岡山県では、南部ではもう頭をうっている感じで、北部だけが頼りである。しかし、県外移出だけをねらった大生産地になることには疑問がある。ブロイラーに関しては、後進県らしい面を多分にもっているのだから、地元消費をより大事にする生産に徹してはどうか。それには、県内の消費地を考えたローカル値段を考え、実行されなければならない。地元の需給関係にかかわらず、大阪市場の何円落ちという建値はおかしいのではないか。

これは、鶏卵についてもいえることである。

よい雛生
福田種鶏場®
本社　岡山市福田　電話岡山(0862)62-1131（代）振替岡山4517
研究所　岡山市浦安　電話岡山(0862)62-0148(代)
関東支場　茨城県竜ヶ崎市馴馬町　電話竜ヶ崎(02976)2-1711(代)振替東京51373
大阪出張所　大阪市阿倍野区丸山通　電話大阪(06)661-9131(代)振替大阪30863
南九州営業所　宮崎県都城市小松原町　電話都城(0986)22-3004　振替鹿児島982
分場　大樽／野々口／長船
郵便番号　本社702・関東支場301・大阪出張所345・南九州営業所885

肉用牛に思う

岡山県普及教育課参事　林　正夫

昨年は後半にはいって和牛のへり方が眼に見えて甚しかった。とくに、子取りは割に合わないとして、種つけや登録の頭数が二割くらいは減ったらしい。

昨年十二月十二日農林省の公表した「農業の地域分担」は、山陽地域は将来野菜、果実、牛乳などの比重が高まり、肉用牛は遠隔地域の東北や南九州が主産地となろう、と見ている。

一方、経済企画庁による「新全総」の解説書「昭和六十年の日本列島」には、牛肉の国民一人当り年間消費量は、昭和四十年の四倍に当る六〇㎏を見込み、そのためには、肉用牛頭数は六〇〇万頭以上なければならないとしている。

つまり所得の伸びとともに牛肉の需要は将来も大きく伸びるか、生産の伸びがこれと平行的に望めるかどうか気づかわれている。安い輸入肉はこんご貿易自由化の波に乗って、一億をこえる人口をもつ一大消費市場の日本をねらって来るであろう。ところで、食糧の自給率を一定の水準に保つことは、昔のように一朝有事の際に備えるということとは別の角度から輸出入両国間に均衡のとれた経済関係を保つうえから、決してゆるがせにはできない問題となっている。

そこで、国や県で肉用牛振興に相当の予算を計上しているものの、現実は期待どおりに伸びるどころか、低迷の域を出ないことは衆知のとおりである。

さて、このような情勢の中で、思いつくままを卒直に書いてみて、読者各位のご検討をわずらわせたいと思う。

はじめに、農林省公表の昭和四十三年の「和牛（子牛）」の収益を見ると、一頭当り所得二万六、七〇〇円、所得率一九・五％、しかし、利潤は三万円の赤字となっている。この数値は一戸平均二頭前後の繁殖牛の規模から出たものである。円となる。もし、自由採食方式であれば零細な所得でも一〇頭に多頭化すれば二七万円くらいの所得になり、また、多頭化することにより省力化等経営合理化について一カ月の差による販売価格の差はつとめれば所得率は格段に向上できることは容易にうなづけるところで、恐らく四〇％くらいには向上できるのではあるまいかと思われる。

第1表　最近における子牛市場成績の概要

月令（月）	頭　数（頭）	平均体重㎏	平均価額(円)	生体1㎏あたりの単価 (円)
4	2	183.5	93,050	507
5	27	183.9	84,104	457
6	138	198.5	89,348	450
7	524	218.8	99,225	453
8	569	226.3	102,502	453
9	218	233.6	101,515	435
10	77	242.2	102,328	422
11	29	242.1	91,373	377
12	18	243.1	95,611	393
13	11	274.3	108,969	397
計または平均	1,613	222.1	99,618	449

注 (1) 新見市場（9月）614頭，津山（10月）643頭および高梁（10月）386頭の成績を一括した。

ここに子牛生産の現況から具体的な問題を引き出して検討してみたい。第一表を見れば、平均体重は月令の大きいものほど大きくなっているけれども、価額は八か月令までは高くなっているが、九か月をこえてからはむしろ安くなる傾向を示している。したがって、生体一㎏当り単価は当然月令の進むにつれて安くなっている。体重が必要以上に重要視され、月令を大きくして、体重の絶対量をとにかく大きくしようとした結果は皮肉な価格形成となって表われている。

一方、子牛が一カ月間に別飼いの濃厚飼料をいくら食べているかを考えてみたい。実態調査の結果ではないが、体重のほぼ一％の採食率であれば日量二～二・五㎏くらいとなるから、月に六〇～七五㎏、金額にして二、四〇〇～三、〇〇〇前後の繁殖牛の規模から出たものである。円となる。もし、自由採食方式であれば零細な所得でも一〇頭に多頭化すれば二七万円くらいの所得になり、また、多頭化することにより省力化等経営合理化について一カ月の差による販売価格の差はつとめれば所得率は格段に向上できることは容易にうなづけるところで、恐らく四〇％くらいには向上できるのではあるまいかと思われる。

利潤の最大をねらう生産農家は、子牛を七ないし八か月令で販売するのがよいということになる。一方、肥育もと牛などに仕入れる買い手農家側としては、体格さえしっかり整備された子牛であればよいのであって、子牛らしからぬ余計な肉や脂肪をつけた子牛は、かえって飼いにくく不経済な牛であるから、適度な月令や体格をもつ規格として七ないし八カ月令、平均体重二二〇～二三〇㎏ぐらいに買気が集っている証拠だと見るべきであろう。九カ月令以上にして市場へ出される子牛は、発育が余りよくないとか、放牧後の飼いなおしをしたとか、何か特殊事情があるかとも想像されるけれども、前述の点をよく考えるべきである。

本県の和牛については産乳能力の向上が課題となっている。古い資料を探してみたところ、平均日量三㎏以上哺乳するのは生後三カ月令までであって、乳徴のよいとされている鳥取県の和牛のほうは四カ月令以上にわたっている。母乳を多くする方向へ遺伝的改良することが肝腎であろう。また、どうせ九〇日くらいまでしか母乳からの栄養が期待できなければ、子牛を二～三か月令で早期離乳することを考えてもよいのではなかろうか。これについて若干のデータが無いわけではなく、若干の県立畜試で試験も試みられている。

問題になる点は、母子を早く分けるので、繁殖牛の放牧管理にきわめてつごう

第2表　肥育過程における日々の収益性についての試算

1.　黒毛和種去勢牛早期若令肥育におけるすぐれた肥育成績を示す場合

〔1〕もと牛月令 (a)	8カ月	10	12	14	16	18	20	22	24
肥育経過月数 (b)	0 月	2	4	6	8	10	12	14	16
生体重 (c)	250 kg	304	364	430	496	556	616	658	700
1日平均増体量 (d)	0.9 〃	1.0	1.1	1.1	1.1	1.0	0.8	0.7	0.6
枝肉歩留り (e)	(53.5 %)	(54.0)	(55.0)	(57.0)	59.0	61.0	61.5	62.0	63.0
枝肉重量 (d)×(e) (f)					0.65 kg	0.61	0.49	0.43	0.38
枝肉単価 (g)					740円/kg	770	800	820	840
生体単価 (h)	500円/kg	480	460	440	(437)	(464)	(480)	(496)	(517)
増価額 (d)×(h)又は(g)×(f) (i)	450 円	480	506	484	481	470	392	353	315
飼料費 (ウ)+(オ) (j)	257 円	299	344	368	384	364	352	323	315
濃飼 体重に対する採食率(ア)	2.5 %	2.4	2.3	2.1	1.9	1.6	1.4	1.2	1.1
濃飼 採食量(イ)	6.3 kg	7.3	8.4	9.0	9.4	8.9	8.6	7.9	7.7
濃飼 飼料費 (40円/kg) (ウ)	252 円	292	336	360	376	356	344	316	308
粗飼 採食量 ((イ)×0.15) (エ)	0.9 kg	1.1	1.3	1.4	1.4	1.3	1.3	1.2	1.2
粗飼 飼料費 (6円/kg) (オ)	5 円	7	8	8	8	8	8	7	7
粗収益 (i)−(j) (k)	193 円	181	162	116	97	108	40	30	0
経営費 (j)×100/80 (l)	321 円	374	430	460	480	455	440	404	394
純収益 (i)−(l) (m)	129 円	106	76	24	1	15	△48	△51	△79

注　1. 〔1〕はすべて1日当たりとする。
2.(e)については仕上げ体重に対する枝肉歩留りとする。（）内は少数の試験例から参考までに記した。
3.飼料は，濃飼の15％重量の切りわらを混ぜたものを常時不断給餌するものとする。
4.(j)は飼料費がもと牛費を除く経営費の80％を占めるものとする。

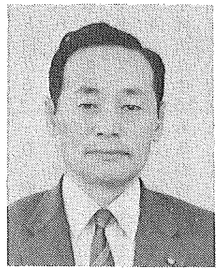
第3表　肥育過程における日々の収益性についての試算

2.　黒毛和種去勢牛早期若令肥育における産肉成績のよくないものの場合

〔1〕もと牛月令 (a)	8カ月令	10	12	14	16	18	20	22	24
肥育経過月数 (b)	0 月	2	4	6	8	10	12	14	16
生体重 (c)	210 kg	258	312	366	420	468	504	534	568
1日平均増体量 (d)	0.8 kg	0.9	0.9	0.9	0.8	0.6	0.5	0.4	0.3
枝肉歩留り (e)	(530 %)	(53.5)	(54.5)	(55.5)	(57.0)	58.5	60.0	61.0	62.0
枝肉重量 (f)						0.35 kg	0.30	0.24	0.19
枝肉単価 (g)						700円/kg	720	740	760
生体単価 (h)	500円/kg	480	450	420	420	(410)	(432)	(451)	(467)
増価額 (d)×(h)又は(g)×(f) (i)	400 円	432	405	378	336	245	216	178	144
飼料費 (ウ)+(オ) (j)	205 円	241	270	299	311	307	291	282	278
濃飼 体重に対する採食率(ア)	2.4 %	2.3	2.1	2.0	1.8	1.6	1.4	1.3	1.2
濃飼 採食量(イ)	5.0 kg	5.9	6.6	7.3	7.6	7.5	7.1	6.9	6.8
濃飼 飼料費 (40円/kg) (ウ)	200 円	236	264	292	304	300	284	276	272
組飼 採食量 ((イ)×0.15) (エ)	0.8 kg	0.9	1.0	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0
飼 飼料費 (6円/kg) (オ)	5 円	5	6	7	7	7	7	6	6
粗収益 (i)−(j) (k)	195 円	191	135	79	25	△62	△75	△104	△138
経営費 (i)×100/80 (l)	256 円	301	338	374	389	384	364	353	348
純収益 (i)−(l) (m)	144 円	131	67	4	△53	△89	△148	△175	△204

注　第2表の注に同じ

朝市隠遁



笠岡家畜保健衛生所長　竹原　宏

新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いします。

本欄は各保健所長さんの輪番で執筆しておられるようですが、幸か不幸か、私が新年号に当ってしまいました。その上、編集者より本県の畜産について意見を書けとのことで、事の重大さに私の筆はピタッと止ってしまい動かなくなりました。

しかし、新年号というものは、社会通念からして、お屠蘇気分で垢抜にあたり附録のマンガの方を楽しむ本であります。本誌には、マンガがついていないようですから、せめて私の駄文でもお読み下さい。

私の住家は、岡山市の大安寺にある。毎日大安寺から矢掛町にある保健所に通うのであるから、備中の国を東の端から西の端に往復していることになる。片道一時間半を汽車とバスに乗りついで通っている。幸いな事に、ラッシュの逆方向であるので乗物はいつもガラ空きである。冬になると、朝もやに浮ぶ吉備路の景色が車窓に移りゆく様は誠に美しく優雅なものである。

「鮹は百年の半に近づきて、鬢の霜漸く涼しと雖も、為すことなくして、徒に明し暮すのみにあらず、さして何処に住み果つべしとも思い定めぬ有様なれば、彼の白楽天の「身は浮雲に似たり、首は霜に似たり」と書き給える。あわれに思

がよく、母牛の再起発情が早く、かつ受胎率がよくなるがその反面、子牛に飼料費がどうしても幾分多くかかり、また、離乳によるストレスが原因で発育に少しでも悪影響が現われないか、という点である。

肥育経営において問題となるのは、肥育利潤の最も大きい時点をどうとらえるか、すなわち、仕上げ体重はどのくらいが有利か、ということである。第二および三表に試算したものをのせたのでご検討ねがいたい。紙数のつごうで設定条件その他の説明をいっさい省略するので、ご判読ねがいたい。飼料給与方法などにより、生体重、一日平均増体、肉質、枝肉単価など経営を支配する要素について変動が多いので、かりに表示したような条件をあてはめて、肥育成績のよいものとよくないものとを試算してみた。したがって平均的なものは、この両者の範囲内にあることになる。関連資料が去年の十月号の「畜産の研究」に河田飼料Ⅲの山本氏らが掲載しているので参照されたい。

本県における現行の協定技術では仕上げ体重は五五〇㎏程度となっているはずである。表によれば、成績のすぐれたものでは、日々の増価額が日々の経営費を上廻る時点、すなわち、二〇カ月令六〇〇㎏まで、能力のおとるものでは同じようにして、一七ないし一八か月令、体重四五〇㎏で頭打ちということになる。

京都大学並河講師は「生後一六カ月令で生体重五〇〇㎏、枝肉の脂肪交雑プラス三になるような牛が大きい比率を占めるのが将来のねらい」としている。これらを考え合わせて、生後一八～一九カ月体重五五〇㎏までに止め、なおすぐれた能力の牛は、さらに三、四カ月肥育して理想肥育する、というのがこれからの肥育の行き方のように思われる。なお、乳用雄子牛の枝肉単価が和牛より一〇〇円安いほかはすべて第一表の条件にあてはめられるとすれば体重五〇〇㎏が換算の限界点ということになり、また、枝肉単価が九五〇円にもなれば六五〇㎏くらいが限界というようになろう。

肉用牛について、このごろ考えている技術経営上の問題について私見を披れきし、あえて読者各位のご検討をねがうことが「考える肉牛経営者」をさらに多くする道につながると信じて、あえて拙文を披歴するしだいである。

い合せらる。もとより金帳七葉の栄えを好まず、ただ陶潜五柳すみかを求む。しかはあれども深山の奥の柴の庵までも暫く思い休らう積なれば、なまじいに都のほとりに住いつつ、人並に世に経る道なむ列なれり、是れ則ち身は朝市にありて、心は隠遁にある謂れなり。」この一節は東関紀行の冒頭であるが、車窓の吉備の風物は何故かこの一節を私の心に想い起させるのである。

車中往復三時間というのは、大変貴重な時間の空費に思えてならない。ある大先輩が、船若心経を手に入れたとおっしゃったので、私も負けずに論語の解説書を買ってきて車中で読むことにした。上巻が終らない内に飽いてしまった。

次に吉備の古文化を勉強したくて、「岡山県の歴史」というポケット・ブックをしのばせた。これは面白かったので最後まで読めた。今、手提げカバンの中に弁当と一諸に入れてあるのが「家畜の個体発育」という部厚い論文である。

この本はソ連の本を訳したもので、発生から胎内発育・熟性の問題を外界感作との関連において論述した、いわゆるミチューリン学説を中心にした論文である。私が興味をもった点は、あくまで家畜を経済動物として扱い、家畜を経済的に役立たせるにはどのように改良し、どのように管理すべきかを論じている。特に飼養管理が胎内の子畜の発育に及ぼす影響を詳細に論じている点は、今後の畜産技術の新分野を示唆するものではなかろうか。また、経済的熟性に対する考え方は大変参考になった。

いま、最も困難な門に立たされて、論議の的になっている家畜に、和牛がある。

曰く、和牛の肥育は儲かるが、子畜生産者は儲からない。

曰く、和牛の放牧は成績があがらない。常食であるが、この常食の肉が和牛のように脂こく甘い味であれば、毎日は続かないのではなかろうか。

米に、もっと甘味があったら、一日で参ってしまうであろう。国民の所得が多くなればなる程、肉の需要が増え、調理もスキヤキから欧風の焼肉に変ってゆくであろう。この時、淡泊な肉を誰が供給するのであろうか。専門家がおっしゃるように脂の入らない若牛を供給するのだろうか。それでは、生産者の価格はどうなるのでしょう。現状より一歩も出ない事になるのではありますまいか。

次に、和牛の肥育は儲かるが、子牛生産に歩がないということであるが、価格問題、流通問題はさておき、子牛生産農家と肥育農家が別に存在する（現在もそうであるが）場合、これを改良面から問題点として捉えると、生産農家は健康で寿命の長い牛を作り、繁殖力の旺盛な牛、即ち晩熟性の牛を望み、肥育農家は早熟性の牛を求める事になる。結局、同一和牛に相反した要求が出される事になる。

（門外漢が敢て提言するならば）コマーシャル肉のルートを撰ぶとすると、もっと廉価に市場に供給しなくてはなるまい。そのためには、手数のかからない促成の大量生産方式が強要される。多少、味は淡泊になり、品質が低下しても致し方あるまい。ニュージーランドで毎日出された肉は淡泊でかたかった。肉は外国人の口に脂こく甘い味であれば、毎日は続かないのではなかろうか。

また、これを補完すべき飼養管理法がであるのであろうか。

曰く、和牛の肥育は儲かるが、子畜生産者は儲からない。

次に、和牛の放牧は成績があがらない。

という問題であるが、私は柵一つ隔てたある牧場で、ジャージー種と和牛が放牧されているのをみた。ジャージー種は毛沢もよく、よく肥えていた。和牛のほうがやつれていた。ジャージー種は舎飼いに弱く、放牧に適する品種である。舎飼いで作られた和牛に、ジャージーと同じ期待を寄せるのは無理ではなかろうか。私はニュージーランドでいろいろな品種の肉牛をみた。そしてその品種が草性に応じて放牧され、それぞれの特性が活かされているように思えた。適地適畜というか、自然に順応した飼養がなされていたように見えた。しかし、ニュージーランドと日本ではそっくり国情が違う。ニュージーランドでは一頭のジャージー種に一ヘクタールの草地を与えられても、吾国では与える事はできない。また肉は我々の常食ではない。家畜を自然に遵す技術は簡単であろうが、更にもっと高度術の研究をしてみたくて、「家畜の個体発育」を読んだのである。

初夢

新春に想う

杜陵 胖

「新年の御慶芽出度申納候」こんな賀状が舞い込んだ昔を思い出しながら、今年の新春を迎えた。

今年の農業界は大ゆれのようである。基幹作目であった米の問題から波及して、農産物全体が不安の内に新年を迎えたようである。

南部を廻ってみると休耕田は目立たないが、中北部に入ると荒れた休耕田が寒々としている。転作をやるよりは休耕地にして補償金だけを貰って、弁当持ちで出た方が得になるといった考えが強い。

マイクロバスは山間部の思いもよらない所まで入り込んで、人集めをして、南部の工業地帯へ送りこんでいる。日当がいくらになると大きな話をされるし、眼の前をマイクロバスが走ると、よほど意志の強固な人でもつい出たくなるものらしい。

診断農家を廻ってみても、自分の経営で日当がいくらになると考えながら、出稼ぎの人の日当と比べて不安な気持ちでいる人も多い。

一方では弁当持ちで出てみても、単純労務で、時間に束縛されて、とても性に合わないと、一度売った牛を買い戻して、また酪農を始めた人もある。全く世は様々である。勘定高い人は目先の収入のみにとらわれて、将来計画もないようであるが、さればといって、日本農業の将来にどれだけ頼れるか不安がないでもない。

農政の貧困は農民の不安につながり、生産意欲を阻害していることも見逃せない。

ある酪農家は、国や県が酪農を奨励したから自分達は酪農をやっているのに、牛乳の消費は伸びなやむし、飼料代は上るのに乳代は上らない、公害問題では喧ましくいわれ、立つ瀬がない。国や県のいうことにはとてもついて行けない。自分達は将来何をやったらよいのかとこぼしている。

一方では黙々と規模を拡大し、経営の改善を図り、乳牛に打ち込んでいる人も多い。酪農のうま味を知った人に限ってあまり大きな声もしないで、黙々と儲けているのである。

こんな人は自分の家の生産費がいくらにつき、日当がいくらになっているから、に、独り農業のみが昔ながらの考え方で、現在いくらの儲けになっていると、自分の経営の内容をよく知っている人が多い。これでなければ経営などということはできるものではない。

昔から「農業には技術は在っても、経営はない」とよくいわれたものであるが、今日ではもはや農業も経営を考えなければ成り立たない時代になってしまった。

勘で物をいう時代ではなく、数字に立って物をいう時代である。生産費がいくらになっているかも知らないで、損をしたとか得をしたとかいってみても、表面的な金の動きのみにとらわれた議論であって、もはや今日の世の中には通用しないことである。ところがこんな人々が意外と多く、指導者や組合の幹部に喰って掛ってくるのも、こんな人達であるから始末が悪い。

農業の業は昔は「なりわい」を意味していたが、今日ではもう企業としての業でなければならなくなってきた。

他の企業が生産費を計算し、販売費と利益を計算して物の単価を決めている時でになってきたので、経営そのものも企業的センスが要求されるようになったので、それだけに畜産会の仕事も高く評価されるようになってきた。我々の仕事は縁の下の蔭の仕事のようであっても、畜産農家にとっては力強い相談相手であることが最近やっと認識されてきたことは慶ばしい現象である。

畜産会はこのように農家を対象の忍耐を要する仕事と共に、一方では畜産団体の大同団結を図り、外に向っては大きく畜産界のためにも活動をしなければならない。畜産会に課せられた多くの問題があるが、今年こそは畜産界のあらゆる分野に首を突っ込んで、お互に話し合い、畜産の総力を結集して、畜産界の発展を図りたいと念願している。

畜産会は組織の上では弱い団体であるかも知れないが、意欲的に活動することによって、力を与えられ、支持者が得られるものであることを確信している。

農政に対する不信感や、貿易の自由化に対する不安や、公害問題、飼料問題と数多くの問題点をかかえながら、しかも農家のよい相談相手となって行くことが我々の進むべき道であると思う。

「このほかに進むべき道なし、この道を行く」とは武者小路実篤の言葉であったと思う。

今年こそは強い信念をもって畜産会の発展に尽くしたいと念願しているので、一層のご援助をお願いする次第である。

よい若雌のご引合は是非当社へ

45年平均育成率97.5%(120日令)

若雌育成専門直営農場
日清製粉の完全飼料

岡山市清輝橋3－8－15(〒700)

片山産業株式会社

TEL 岡山(0862)22－8817(代)

謹賀新年

“養豚振興に貢献する”

岡山県養豚振興協会

会長　岡崎若松

副会長　熊本強　副会長　永礼達造

繁殖部長　松永康夫　肉豚部長　居樹慶成

事務所　岡山県農林部畜産課内　Tel24－2111内線504

岡山県家畜人工授精師協会

会長　惣津律士

岡山市内山下県庁畜産課内

電話　24—2111（内線506）

謹賀新年

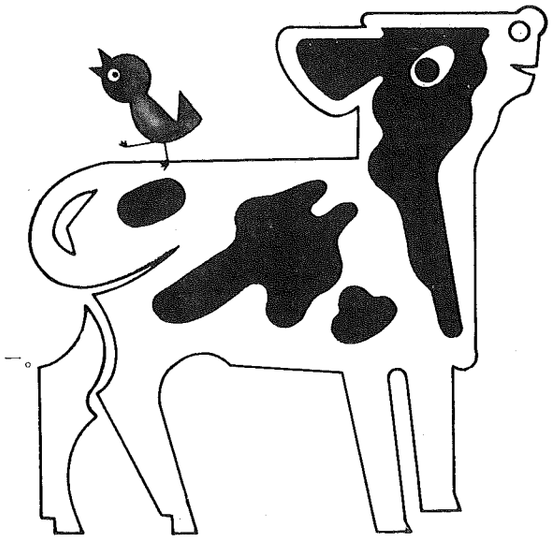
2等乳撲滅　きれいな生乳を出しましょう!!

岡山県酪連乳質改善協議会

乳は国産　エサは全酪

団結は力！

系統利用は団結の象徴



最高の水準をゆく全酪連乳用子牛育成体系

（乳牛の飼料は専門の全酪連におまかせ下さい）

主要取扱品目

専管，増産ふすま。外国大麦飼料。

カーフトップ。脱粉飼料。カーフスターター。

幼牛用，搾乳用配合飼料。

その他酪農用飼料資材全般。

市乳，バター，チーズ，練乳，粉乳。

日夜酪農民の利益増進に奉仕する酪農専門農協！

全国酪農業協同組合連合会

本誌の予約申込要領

誌代　一部　五十円（送料共）

年間予約六百円（送料共）

但し一部購入の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も一部五十円のサービス価格とす。

集団申込の特典

十部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十五円にします。百部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十円に割引きます。但し，この場合は一括購読ですから個人別発送は致しません。

申込方法

同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としております。

申込先

岡山市下石井二ー六ー四五

社団法人岡山県畜産会指導課

（電話）岡山㉒ー八五七五番

（口座番号）岡山八五七五番

編集室から

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、読者の皆々様には新たな気運の盛り上りを感じられたことと思います。

岡山畜産便りも今年はエトにちなんで内容の充実にはげみ、特に読者の皆様と直結したものとして、独自の道をつき進んでまいりたいと考えております。

県下の畜産先進地や農家個々の発表、紹介、時に呼応した随想、県や団体の畜産の方向、試験場の新しい技術、本会の行っている畜産コンサルタント事業の効果の波及をねらったものに的をしぼり、誌面の充実を図ってまいります。ただ、これらを行うにあたり、印刷費の値上り、また、第三種郵便物の送料の値上り等いろいろな条件がありますので、四月号より誌代を年間千円にさせていただきます。

岡山畜産便り（一月号）

第二二巻　第一号

昭和四十六年一月二十五日発行

（通巻第二百二十号）

発行所　岡山県畜産会

編集人　惣津律士

発行人　惣津毅

岡山市下石井二の六

電話　岡山㉒八五七五番

振替　岡山八五七五番

印刷所　岡山市丸之内二の一一

ふじや高速印刷所

電話代表㉕四九五一番

定価　一部五十円（送料共）